

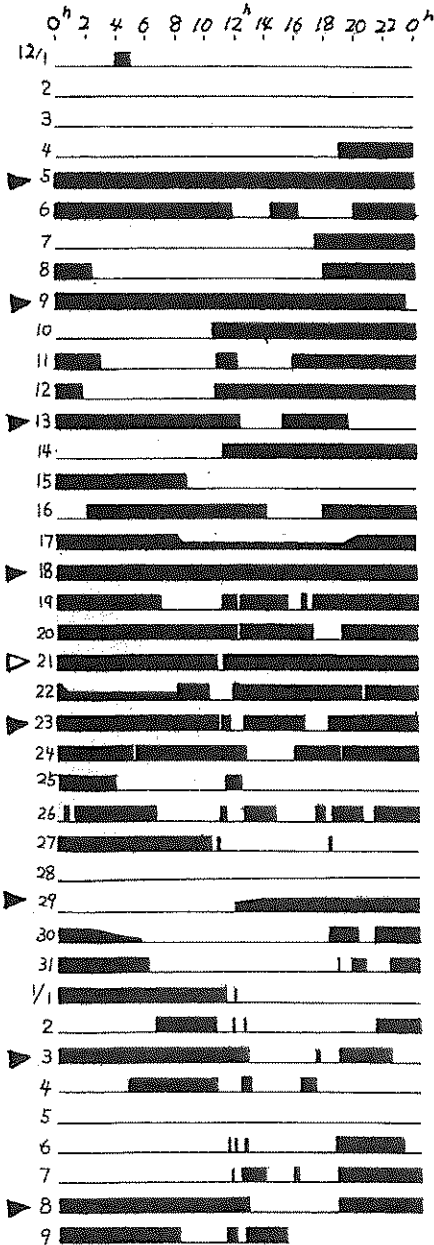
原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1996

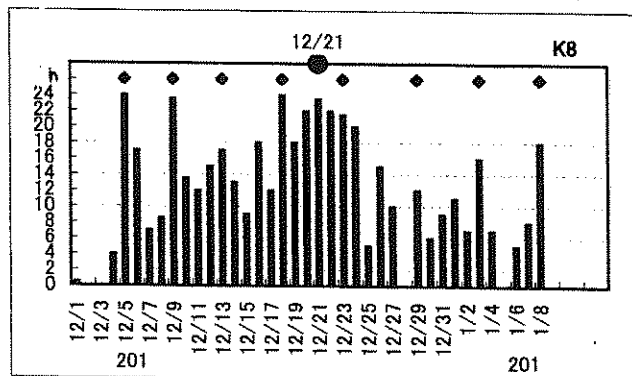
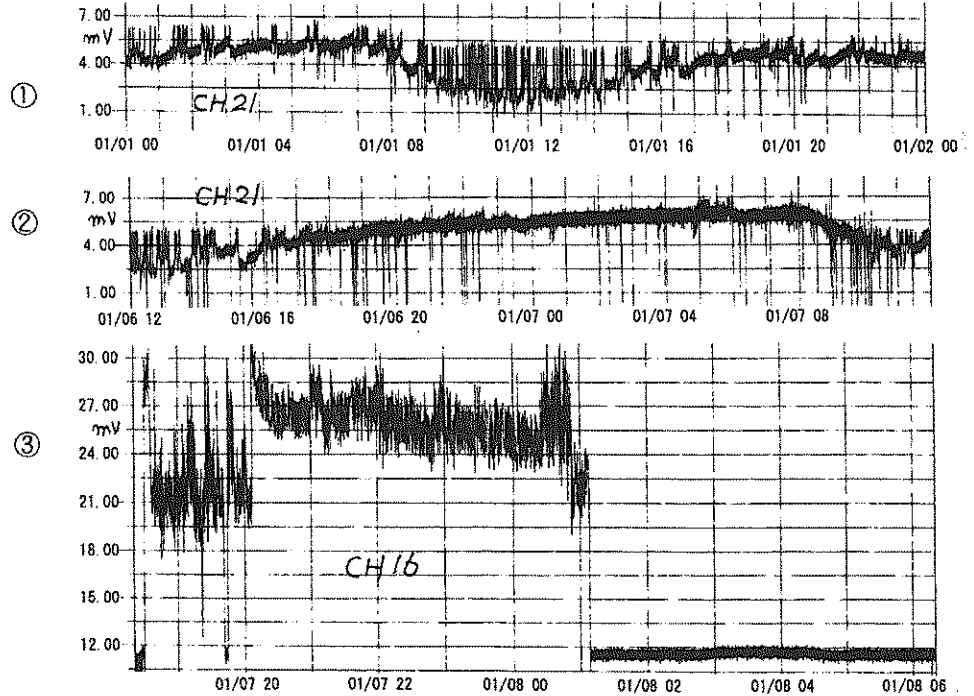
No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆続報 K8 特異解析

No.1778長期継続特殊前兆の続報現況。
約4年半の間、顕著な特異状態を記録してきたハヶ岳のCH21も右①のとおり、弱い変動に変化し、数日前から②のとおり、通常静穏基線を記録する時間帯が長くなって参りました。またCH16も③のとおり、特異状態から突然、通常正常基線を記録する時間帯が多くなって参りました。前兆は極めて静穏化傾向です。

下図④ K8系状特異日々出現状況



(1/9 15hまでのデータ)



図⑤ K8系状特異日々継続時間計グラフ

◆印は 図の周期性認識小ピーク。●印は極大認識(周期性無しピークと同一認識)

1/8 までの日々積算値

12月29日と01月02日に小極大が観測され、お碗型極大の可能性を報告致しましたが、第4期前兆群の先行特異の可能性等から、12/29±が示唆されており、この12/29の小極大(中心極大=12/31)から第5期前兆群に入った可能性も示唆されます。継続前兆のため、初現、極大、終息が良好に認識困難です。そこで12/1に短時間、12/4から継続出現しているK8特異に注目しました。左のとおりの日々出現状況ですが、日々の継続出現時間計積算値を示したグラフが上図⑤です。小ピーク毎に高くなってはいますが、全体は山型になっています。極大は顕著時期 12/18~12/24 の中心=12/21 と認識できます。このK8特異単独の変化を経験則 ($T_{\text{ap}}:T_{\text{map}}=20:13$) に当てはめてみました。初現が12/1の場合と、継続した12/4の場合の2種が考えられます。左下記のとおり、1/21±又は、
1) 初現=12/1 極大=12/21 ⇔ 1/21± 1/27± の2種の発生推定時期が計算でき
2) 初現=12/4 極大=12/21 ⇔ 1/27± ます。左図の▶印は周期性認識 ▷印は周期性無し認識。12/21+(4.85×6)=1/19± 12/21+(4.85×9)=2/2± の可能性も試算できますが、8Tでは無いので当てはまらない可能性も有。但しK8特異が1778関連認識で正しい場合は、少なくとも1/19以前に対応地震が発生する可能性は否定できません。1/13±等で更に前兆静穏化が認められるか、1/18±に静穏化するか、注目です。更に観測を続け検討を進めます。 C) Copyright 2013 YSBO ハヶ岳南麓天文台